

Title	ウクライナ大統領ゼレンスキー氏のメディア表象 : 各国演説のマルチモーダル談話分析
Author(s)	秦, かおり
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2024, 2023, p. 1-10
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/97308">https://doi.org/10.18910/97308</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# ウクライナ大統領ゼレンスキー氏のメディア表象 —各国演説のマルチモーダル談話分析—

秦 かおり

## 1. はじめに

2022年2月24日、ロシアのプーチン大統領は「特別軍事作戦」の名の下にウクライナに侵攻した。それは突然行われた行動ではなく、もともとロシアとウクライナは、強い緊張関係が続いていた。直接的な発端として、2014年、ウクライナ領と国際的に定義されるクリミア半島をロシアが一方的にロシア領として編入したことが挙げられる。それ以降、この土地をめぐる紛争・対立がずっと続いていた。そして2021年、ウクライナはNATOと合同軍事演習を行い、NATO軍を国際的な味方であるとして、ロシアとの対立を深めていった。アメリカはこの時期をロシア・ウクライナ危機と呼び、すでにこの頃には一触即発の状態であった。その流れの延長線上に、2022年2月24日の今回の戦争は位置付けられる。ロシアはこれを「特別軍事作戦」と呼んだが、一方のウクライナのゼレンスキー大統領はこの特別軍事作戦を受けてウクライナ全土に「戒厳令」を発布し、18歳から60歳までの男性に対し、原則として出国禁止とする「総動員令」を発令、これをもってウクライナ側はこの軍事作戦を「戦争」と位置づけ、戦闘状態に突入した。

このロシアの軍事侵攻に端を発したロシア・ウクライナ戦争<sup>1</sup>は、主としてウクライナ側が高度なメディア戦略を駆使し、大国から攻め込まれた小国として最も効率的、効果的な世界への発信戦略を成功させていたと言える。また、メディア戦略は、ゼレンスキー大統領だけが駆使したのではなく、より草の根の運動の一つとして、一般市民もSNSへの投稿を行い、よりリアルな戦闘状態の悲惨さを直接世界に発信することを可能にした。

本稿では、特にゼレンスキー大統領が行った各国での演説（オンラインを含む）を題材としてマルチモーダル分析を行い、演説を外交政策の一つとして捉えてゼレンスキー大統領の表象を明らかにしていく。

## 2. ゼレンスキー大統領のメディア戦略

当初、ウクライナのゼレンスキー大統領は行方が分からず国外逃亡をしたのではないかとの憶測が流れた。これに対し、ゼレンスキー大統領は2022年2月25日、Instagramで自分もウクライナ政府幹部も皆ウクライナに残り大統領と行動を共にしていることを発信した（図1）。その投稿は、キーウ市街を背景にゼレンスキー大統領自身が自撮りで撮影しており、逃亡しておらずキーウにいることを明示し、国外逃亡をしたというデマが「誤情報」であることを明確に発信すると同時に、ゼレンスキー大統領の戦う意志を示すことで国民を鼓舞する態度を示した。また、共に映る政府幹部一人一人を紹介しながら戦う姿勢を示している。彼らは一様にカーキ色の服を着ており、共に戦時下にあるということを明示した。

---

<sup>1</sup> ロシアはこれを「特別軍事作戦」とし、ロシア国内で「戦争」という言葉を使用することを禁止している。日本政府は、これをロシアによるウクライナ侵攻と定義づけて報道した。現在では世界的に「ロシア・ウクライナ戦争」と呼ばれている。



図 1. 2022 年 2 月 25 日のゼレンスキー大統領の Instagram への投稿

翌日 2022 年 2 月 26 日、ゼレンスキー大統領は Twitter（現 X）で自らの無事とウクライナ国民を鼓舞するメッセージを投稿し、それは世界中に拡散された。これも前夜と同じく、大統領本人の自撮りで撮影され、その背景にはウクライナの市街が映っている（図 2）。



図 2. 2022 年 2 月 26 日のゼレンスキー大統領の Twitter への投稿

この発信の際、ゼレンスキー大統領はやはりカーキ色のシャツに、カーキ色のジャンパーのようなものを着用しており、大統領が公の場でフォーマルに振る舞う様とはおよそ真逆の、軍事化の非常態勢であること、ゼレンスキー大統領自身が安全な場所に隠れているのではなく、「国民と共に戦っている」ことを印象付けるものだった。

この 2022 年 2 月 26 日の SNS 発信以降、ゼレンスキー大統領は状況の発信や国民の鼓舞のため

め、また国際社会への訴えのために、度々SNSを更新し、その度に常にこの服を着用して、この後現在に至るまで、ゼレンスキー大統領が着続けている戦闘下のアイコンとなった。

### 3. ゼレンスキー大統領の演説における表象

ロシアのウクライナ侵攻以降、国際社会、特にアメリカは率先してウクライナへの支援を表明し、武器の供与、資金援助を行った。ロシアはウクライナを非難するよりも、ウクライナの背後でウクライナを支援するアメリカやNATOを強く非難し、大国に飲み込まれる小国の図式に見えた本戦争は、ロシアとアメリカの代理戦争の意味合いが濃くなっていく。ゼレンスキー大統領は積極的に各国や国連の議会など、会議の場で演説をする機会を得て、「大国の理不尽に争う小国」である自分達ウクライナに支援を要請（あるいは依頼）した。

これらの演説の際、ゼレンスキー大統領は、およそ正式な場にはふさわしくないカーキ色のTシャツや長袖のトレーナーを着用し、自らを戦争のただ中にいる人物としての印象を堅持し続けた。しかし、ゼレンスキー大統領の演説そのものは各回によって微妙に異なる。その異なりは明らかに何かを意図している。しかしゼレンスキー大統領自身が何を意図したかということは語らないため、これは各国メディアがどのようにそれを論じたかを見ることによって読み取るしかない。もちろん、結果として各国メディアがどのような報道をしたかということと、ゼレンスキー大統領が何を意図していたかは必ずしも一致しない。送り手と受け手の間を繋いでいるメディアがどのような色を付けて報じるかが受け手としてのメディアのこちら側にいる私たちに何が届いていたのかを検証することとなる。

#### 3.1 英国議会での演説

2022年3月8日、ゼレンスキー大統領は、英国議会においてオンラインで演説を行った。この際、ゼレンスキー大統領はどこにいるのか場所は不明であるが白い背景にウクライナの国旗を立てて演説を行った。服装は2月26日に初めてSNSに姿を表した時から貫かれているカーキ色の軍服を思わせる服装で、今回は半袖のTシャツであった（図3）。



図3. 英国議会でのオンライン演説



図 4. 英国議会での聴衆（議員）のスーツ姿とゼレンスキー大統領の服装とのギャップ

この英国議会に参加している人々は基本的にフォーマルなスーツを着用しており、大きなモニターに T シャツ 1 枚のゼレンスキー大統領の服装は奇妙に映る（図 4）。議会での演説には相応しいとは考えられないこのスタイルは、ゼレンスキー大統領の戦時下のアイコンとして受け入れられ、服装を非難する声は聞かれなかった。

演説内容は、「偉大な歴史を持つ国の人々へ」と始まり、英国を称えた後に、1940 年の第 2 次世界大戦時に当時のチャーチル首相が行った演説に準えた内容で、ロシアのウクライナ侵攻以来の「13 日間に起こったこと」を淡々と時系列に従い述べていくものだった。この演説の中で、ゼレンスキー大統領は、ナチスになぞらえた例えをいくつも使用した。たとえば、「なぜなら、われわれのウクライナを失いたくないからです。ナチスが、あなた方の偉大な国、イギリスに対する戦いを始める準備をしていたときに、あなた方が国を失いたくなかったのと同じように。」「6 日目に、ロシアのミサイルがバビヤールというキエフにある渓谷に落下しました。これは、第 2 次世界大戦中にナチスが 10 万人を処刑した場所です。80 年後、ロシアは再び彼らを殺したのです。」とし、英国にとってのナチスと、ウクライナにとってのロシアは類似していることを比喩することで、英国人によりわかりやすく状況を伝えたと言える。また、「生きるべきか、死ぬべきか (To be or not to be)」とシェイクスピアを引用し、ウクライナの人々は「生きるべき」であると述べた。この演説に対して、満席の英国議会はスタンディングオベーションで応えた。



図 5. 6. 満席の英国議会でのスタンディングオベーション

このように、ゼレンスキー大統領は各国の事情に合わせて変えるところ、ウクライナ大統領とし

て変えないところ（軍事危機下であることを示すカーキ色のシャツとジャンパー）を巧みに組み合わせる。

### 3.2 EUに向けての最初の演説

2022年3月10日、ゼレンスキー大統領は、EUに向けて初めての発信を行った。2月26日の街中での発信とは異なり、大統領執務室と思われる部屋の中央に腰掛け、左側にはウクライナの国旗、手元の机の上には原稿と思しきメモが置かれている。椅子も先の英国議会での演説場所とは異なり、立派な椅子に腰掛けている。場所はフォーマルに整えられているが、ゼレンスキー大統領自身は、戦時下の自らのアイコンであるカーキ色のシャツとジャンパーを着用している（図7）。



図7. 2022年3月10日のEU諸国へ向けたゼレンスキー大統領の演説

この時のゼレンスキー大統領は、ウクライナ人に対してロシアが行った非道を淡々と報告している。身体は真っ直ぐカメラの方を向き、両手を机の上に置いている。基本的に微動だにしておらず、わずかに動くのは多少頭を振る程度（図8）で、パンチラインを手のジェスチャーで強調するのみである（図9）。



図8. 当該演説で最も大きな頭の動き



図9. 当該演説で最も大きなジェスチャー

頭を振る時も、視線はカメラから外さない。この時のメッセージは、国際社会に、ウクライナと

いう国が何をされているのかよりも、「ウクライナ人」が何をされているのかを訴えており、現在の侵略戦争は、軍人だけではなく、一般のウクライナ人に多大な犠牲が出ていることを述べている。それはロシアの非道と国際法違反を訴えるものであり、その後の多くの演説が具体的な支援を訴えていたのに対し、この演説では支援を訴えてはいてもそこまで具体的な金額や武器供与を要請するものではなかった。それよりも、大袈裟な身体動作を廃して淡々と現実を伝えることで、ロシアの非道を訴え、結果的に国際社会を味方につけることに成功している。

これに対し、英国のボリス・ジョンソン首相は、SNSでウクライナに対する更なる「支援(support)」の道を探ることを表明した。また、この頃から国際社会はロシアへの経済制裁を行うようになった。直接的な軍事的支援を行わなくても、間接的な経済制裁は、ロシア国内の経済状況の悪化を招いたが、ロシアの更なる態度の硬化と逆にロシアの影響下にある物資の輸出入の制限につながり、世界の経済への打撃を生んだ。

### 3.3 米国連邦議会での演説

2022年3月16日、ゼレンスキー大統領はアメリカ連邦議会でもオンライン演説を行った。この演説では、英国議会でオンライン演説を行った時と同じ白い背景の部屋に茶色い簡易的な椅子、左側にウクライナの国旗を掲げてオンラインに登場した(図10)。



図10. 米連邦議会での演説の様子

彼の戦時下のアイコンであるカーキ色の半袖のTシャツを着て机の上に両手を置き、正面を見据えている。連邦議会の議場では、ゼレンスキー大統領が大写しになり、画面の両側に米国旗が掲げられる中、人々がスタンディングオベーションで迎えていることがわかる。

ゼレンスキー大統領はこの演説においては「リーダー」を11回、「自由」を9回、「民主主義」を3回繰り返し述べて、人々は民主主義的に自由である権利を持っている(が、それが脅かされている)ということ、アメリカのリーダーシップが必要であることを強く述べた。さらに、パールハーバーと9.11を罪なき人々が巻き込まれた理不尽な出来事として述べ、米国が直接的に攻撃されたことのある歴史上重大な出来事とウクライナの今の立場を共起させ、理解を求めた。また、

具体的な支援策についても述べている。

この演説の後、日本では「パールハーバー」に反応した報道が見られた。日本を加害国とした出来事であるパールハーバーに言及したその1週間後に日本での国会演説を控え、ゼレンスキー大統領がどのように何を述べるのか、二枚舌のように見られないためには繊細な駆け引きが必要になってしまった。以下が日本国会での演説である。

### 3.4 日本の国会での演説

2022年3月23日、ゼレンスキー大統領は日本の国会にてオンラインで演説を行った。おそらくは英国議会でオンライン演説をした時と同じ白い背景の部屋に茶色い椅子で、左側にウクライナの国旗を掲げてこちらを凝視し、ほとんど身じろぎせずに演説を行った(図11)。

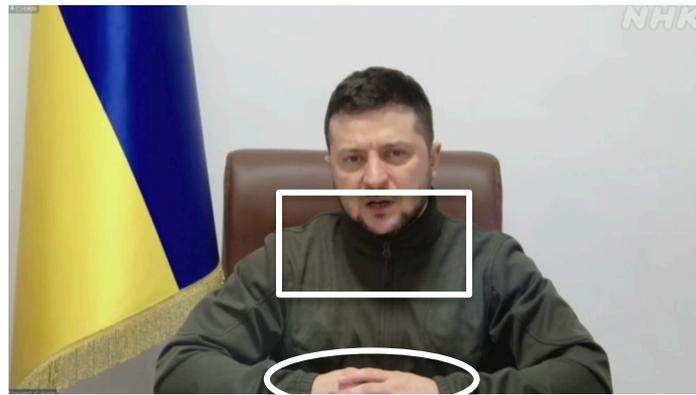


図11. 日本の国会でのオンライン演説

この時、興味深いことに、ゼレンスキー大統領の服装に少し変化があった。これまでずっと首元を開けていたジャンパーのファスナーを一番上まで締めており(図11の四角の中)、またジャンパーの素材もこれまでのカジュアルなフリース素材のようなものではなく、少しだけフォーマルな服を着ていたことである。わずかな違いではあるが、日本の国会のフォーマリティに配慮した結果と考えられる。また、両手を机の上で組み合わせ(図11の下部)、余計なジェスチャーを排した、静的な態度で臨んでいる。

また、演説そのものも、他の演説に比べて口調も内容も穏やかであった。ゼレンスキー大統領は、日本以外の演説では、正義や非道を訴える力強い演説を行っているが、日本でのこの演説の中では、他の演説ではあまり使用していない「平和」ということばを12回も使用し、日本の文化を称え、戦後の復興への支援を「お願い」することに焦点を当てていた。日本の国際的な立場や日本の憲法による軍事上の制約を理解した上で、それらに抵触しないよう、注意深く演説内容を練り上げていたと言えるだろう。

さらに、ここでは「言わない」「触れない」戦略が見られた。他国の演説においてはその国の被災や敗戦などの歴史的事実を引用することで現在のウクライナの立場を理解してもらおうという戦略であったのに対し、日本の国会演説では、日本の過去の敗戦や被災には触れなかった。日本の各種メディアは、ゼレンスキー大統領が国会演説をする前にその演説内容を予測していた。日本で演説をするにあたって非常に難しく繊細かつ国際的な問題として、日本の過去に触れると、ウクライナにとっての1番の支援国であるアメリカをどうしても非難することになってしまう歴史的事実がある。原爆であれ敗戦であれ、もしそれを理不尽な出来事とするならば、その加害行

為をしたアメリカを非難しなければならない。ウクライナが外交上、それをするにはできないと分かっているため、一体どのような演説になるのか、メディアではさまざまな予測が飛び交った。結果として、ゼレンスキー大統領は日本での演説では一度も第二次世界大戦についても敗戦についても、原爆についても触れることはなく、「復興」、「反戦」、「平和」に焦点を当てて、終始復興後に言及して近々の支援よりも戦後の支援を訴えるものとなった。ここに、他国とは異なる、「言わない」「触れない」戦略が明確に見て取れた。

### 3.5 広島での演説

2023年5月21日、開戦から1年以上が経過したウクライナのゼレンスキー大統領は、G7広島サミットに合わせて来日し、広島で演説を行った。



図 12. G7 広島サミットの参加国

G7 広島サミットの参加者を撮影した図 12 では、ゼレンスキー大統領はホスト国である日本の岸田首相の隣に立っており、要人として手厚い歓待を受けていることが見て取れる。他の参加国はフォーマルな服装なのに対し、ゼレンスキー大統領は彼のトレードマークであるカーキ色の上下に戦闘靴という格好で立っている。彼は広島にいる間ずっとカーキ色の服を着用していたが、開戦から1年が経ったこの時期、彼の格好は当然のこととして受け入れられ、広島で献花する時にもこのスタイルを貫いている。ウクライナの国旗と同じ黄色と青の2色のリボンで束ねられた献花を行い（図 13）、ゼレンスキー大統領は演説と記者会見に挑んだ。

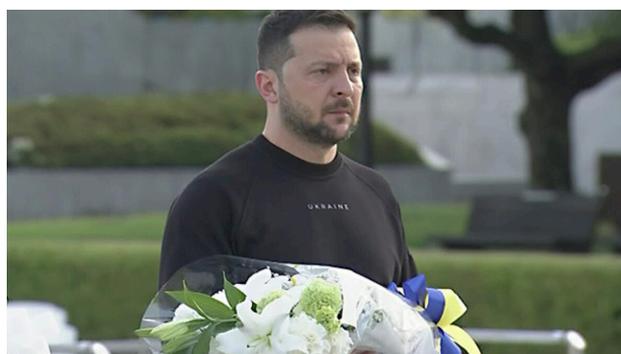


図 13. 広島で献花するゼレンスキー大統領



図 14. G7 広島サミットで演説をするゼレンスキー大統領

広島での演説（図 14）では、「だれが広島に原爆を落としたのか」を絶妙に回避しながら、ウクライナのチョルノービリ原子力発電所の事故を生き抜いてきた「われわれ」と、戦車で原子力発電所を砲撃した唯一のテロ国家である「ロシア」を対照化させ、平和を希求する私たち世界にとってロシアが脅威であると位置付けた。また、10項目にわたる「平和のフォーミュラ（公式）」を提案し、その最初の項目は、「放射線と核の安全」と述べ、ロシアが行っているこの戦争が世界最後の戦争になり平和を取り戻すこと、そして演説の最後には平和を祈り、戦争の犠牲者に対する追悼で演説を締めくくっている。ゼレンスキー大統領は全体として、「原子爆弾」ではなく「核の脅威」を原子力発電所の不法支配に置き換えて演説することで、ロシア以外を敵に回さずに演説を乗り切っている。

#### 4. 結語

本稿では、ウクライナのゼレンスキー大統領が世界各地で行った演説を題材に、その言語・非言語行動、その場を構成するあらゆる要素を勘案するマルチモーダル分析により、ゼレンスキー大統領が巧みに演説の内容・方法を変えていたことを具体的に示した。その結果、ゼレンスキー大統領の演説は、演説をした国だけではなく、その演説が全世界に配信されることを想定して、複雑な国際社会の中で非常に繊細に乗り切っていることがわかった。

また、この時期を考えるとコロナ禍およびコロナ後ということもあり、オンラインでの演説が比較的容易であったことがウクライナにとっては追い風であったことも特筆すべきことであろう。

2024年現在、ロシア・ウクライナ戦争は何度も停戦の提案が出ながら実現せず、さらに多くの国がロシアとウクライナのどちらを支援するかによって、世界は分断されつつある。その中でも、ウクライナは武器の供与などの軍事支援を継続的に求めており、アメリカには「支援疲れ」と呼ばれる現象も見られる。アメリカの大統領選では、他国にどれくらい支援をするかが一つの争点ともなっており、ウクライナの置かれている現在の立場は優位とは言い難く、また終わりも見えない。今回分析した演説は戦争初期の頃のもので、その後はかなり強行的に支援を要請するものなどもあり、初期の演説における綿密な戦略はやや崩れつつある。今後、ウクライナがどのような演説を行うのか、メディア戦略を行うのか、注視していきたい。

## 参考文献

- BBC (2022) In full: Ukrainian President Zelensky's message to UK, <https://www.bbc.com/news/av/uk-politics-60666785?zeph-modal-register> (最終閲覧: 2024年6月1日)
- 池上彰(2022)「ゼレンスキー氏」各国演説の中身—「日本国民に伝えたかったこと」とは何か?—, 東洋経済 ONLINE. <https://toyokeizai.net/articles/-/580030> (最終閲覧: 2024年5月24日)
- NBC News (2022) Zelenskyy full speech: Ukrainian president implores Congress for aid, asks Biden 'to be the leader of peace', <https://www.nbcnews.com/politics/congress/zelenskyy-full-speech-ukrainian-president-implores-congress-aid-asks-b-rcna20286> (最終閲覧: 2024年6月1日)
- NHK 国際ニュースナビ(2022) 【演説全文】 ウクライナ ゼレンスキー大統領 何を語った?, <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220315/k10013532101000.html> (最終閲覧: 2024年5月24日)
- NHK 国際ニュースナビ(2022) 【演説全文】 ゼレンスキー大統領 EU 議会で何を語った?, [https://www3.nhk.or.jp/news/special/international\\_news\\_navi/articles/detail/2022/05/25/21292.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/detail/2022/05/25/21292.html) (最終閲覧: 2024年5月24日)
- NHK 国際ニュースナビ(2022) 【演説全文】 ウクライナ ゼレンスキー大統領 米議会で演説, [https://www3.nhk.or.jp/news/special/international\\_news\\_navi/articles/detail/2022/05/25/21298.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/detail/2022/05/25/21298.html) (最終閲覧: 2024年5月24日)
- NHK 国際ニュースナビ(2022) 【全文】 ウクライナ ゼレンスキー大統領 国会演説, [https://www3.nhk.or.jp/news/special/international\\_news\\_navi/articles/detail/2022/05/25/21285.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/detail/2022/05/25/21285.html) (最終閲覧: 2024年5月24日)
- NHK 国際ニュースナビ(2022) 【演説全文】 ゼレンスキー大統領 アメリカ議会で語ったことは?, [https://www3.nhk.or.jp/news/special/international\\_news\\_navi/articles/detail/2022/12/23/28186.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/detail/2022/12/23/28186.html) (最終閲覧: 2024年5月24日)
- NHK 国際ニュースナビ(2023) 「ロシアを最後の侵略者に」 ゼレンスキー大統領【会見全文】, [https://www3.nhk.or.jp/news/special/international\\_news\\_navi/articles/detail/2023/05/22/31753.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/detail/2023/05/22/31753.html) (最終閲覧: 2024年5月24日)
- 首相官邸(2023) 「G7 サミットゼレンスキー大統領—令和5年5月21日, <https://www.youtube.com/watch?v=wrT9AgVWx2I> (最終閲覧 2024年6月1日)
- 徳力基彦(2022) 「ロシアのミサイルにスマホで対抗する、ウクライナ大統領に学ぶ「言葉の力」」, <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/49831f26939ceb610b577b8f3f2b25ea4318414f>
- Volodymyr Zelenskyy (2022) X, <https://x.com/ZelenskyyUa/status/1497450853380280320> (最終閲覧:2024年6月1日)
- Volodymyr Zelenskyy (2022) Instagram, [https://www.instagram.com/p/CaaFzibgLES/?utm\\_source=ig\\_embed&utm\\_campaign=embed\\_video\\_watch\\_again](https://www.instagram.com/p/CaaFzibgLES/?utm_source=ig_embed&utm_campaign=embed_video_watch_again) (最終閲覧: 2024年6月1日)
- Wall Street Journal (2022) “Video: Ukrainian President Zelensky Says Country’s Leaders Remain in Kyiv”, <https://www.wsj.com/video/series/on-the-news/china-lands-spacecraft-on-moons-hidden-side-to-collect-samples/28436A15-3B5B-45E7-9FB4-D74B155F6A59>